【（愛知県事業）の実施状況1】 医療法人成精会　刈谷病院 「SBIRTSを用いた患者支援の試み」

事業の基本情報

1．事業期間
令和2年4月1日から令和3年3月31日
（平成30年11月より継続して実施）

2．支援対象者
アルコール依存症の外来および入院患者の中で、説明書面を交付し、患者本人の同意が得られた者

3．支援の手法
SBIRTS（**S**creening： スクリーニング、**B**rief **I**ntervention：簡易介入、 **R**eferral to **T**reatment & **S**elf-help groups：専門治療と自助グループへの紹介）を用いた支援

4．専門職員の職種と主な役割

医師
・アルコール依存症の外来および入院患者に、依存症から回復するためには、民間支援団体（自助グループ）による継続的な支援が必要があることを説明し、電話により自助グループにつなぐSBIRTSを行う
・看護師と共に、患者の相談業務や事後調査を実施

精神保健福祉士
・医師、看護師と共に患者の相談業務を実施

看護師
・医師と共に患者の相談業務や事後調査を実施
・SBIRTSを行った患者のデータ管理
・民間支援団体を訪問し連携を図ると共に、支援対象者の状況確認を実施
・行政等関係機関との連絡調整

5．連携している民間支援団体
愛知県断酒連合会、AA刈谷グループ、三河ダルク

支援の内容

6．民間支援団体との連携内容
〇対象者（場合によってはその家族）に対し直接断酒会員から断酒会の案内を行い、例会参加につなげる

＜手法＞
①診察場面で医師が断酒会の説明をし、同意が得られた患者に同意書を渡し、その旨をカルテに記載する
②外来看護師が直接断酒会員（県内に12名）に連絡を入れ、医師が患者の状況を説明する
③患者本人及び家族に電話で直接断酒会員と話をする
④電話終了後に医師または看護師が、断酒会員より状況を聞きカルテに記入する
⑤看護師は患者が希望する断酒会例会場の地域を確認し案内、例会予定表、院内で作成した例会場案内、各断酒会が作成した案内はがきを渡す
⑥再来診察時に定期的に事後調査を行ない、必要時は民間団体に連絡する
※アルコール リハビリテーション プログラム（以下,ARP)入院時は、退院直前に病棟で同内容のSBIRTSを行なう

〇院内外で民間支援団体の支援員とミーティングを開催する
〇民間支援団体が開催する家族教室や講演会等に講師として参加するなど、民間支援団体との協力・連携強化を図る

7．継続的な支援の手法や内容
〇対象者の治療の継続状況・再飲酒の状況・自助グループの参加状況を確認し状況に応じ介入及びサポートを行う。必要に応じて自助グループ等の民間支援団体と連携し支援していく

＜手法＞
・対象者の状況（断酒会への参加状況や生活状況、困りごと等）については、対象者の受診時に直接、または電話によって、医師または看護師等が確認し、必要に応じて助言等を行う
・対象者に直接確認できないなど、状況によっては当院から断酒会へ直接確認する

8．事業の効果を図る指標（共通指標以外）
・SBIRTS実施件数
・SBIRTS事後調査結果

【（愛知県事業）の実施状況2】　**医療法人成精会　刈谷病院**　「SBIRTSを用いた患者支援の試み」

実施方法

【データ集積方法】SBIRTS実施後継続的に事後調査（３ケ月経過時　半年経過時　１年経過時　１年半経過時　２年経過時）し、その結果を集積する

【調査対象者】　SBIRTS実施件数100人（本事業開始時の平成30年11月以降から令和2年１2月1日現在）　うち起算日から３ケ月未満の対象者 21名
平成30年度16名　令和1年度 49名　令和2年度 35名　うち外来SBIRTS 89名　入院SBIRTS 11名
〇3ケ月経過時の調査対象者　100名中79名　〇半年経過時の調査対象者　100名中67名　〇１年経過時の調査対象者　100名中49名
〇１年半経過時の調査対象者　100名中26名　〇 2年経過時の調査対象者　100名中　5名

【実施状況変更・追加内容】
（１）令和２年1月27日以降の対象者より、希望される居住地周辺の例会場案内を渡している（院内で独自の個別案内を作成）
（２）令和２年10月26日以降の対象者に、（１）と併せて愛知県断酒連合会が作成された各断酒会紹介カードを渡している
（３）新型コロナウイルス感染症の関係で例会が休止となった期間について、それ以前に参加していた対象者は、その間を「休」として記した
（４）新型コロナウイルス感染症の関係でARP入院中に自助グループの体験ができない患者に対し、令和2年9月18日起算日の対象者から入院SBIRTSを開始。外来同様に病棟から居住地の断酒会員に連絡を繋ぎ、直接話をする機会を作ると共に、電話後に（１）（２）を渡している

結果

【１】 調査対象者の事後調査結果は、表１のとおり

表1　〇調査対象100名の予後調査結果

n=100（人）	SBIRTS対象者数（A）	受診中断数（B）	受診中断率（%）（C=B/A）	受診継続数（D）	受診継続率（%）（E=D/A）	受診継続のうち自助グループ参加数（F）	受診継続者の自助グループ参加率（%）（G=F/D）	受診継続のうち自助グループ不参加数	自助G コロナ休会	入院	転院	死亡
３ケ月後	79	29	36.7	46	58.2	11	23.9	34	1	3	1	0
半年後	67	33	49.3	34	50.7	9	26.5	23	2	0	0	0
1年後	49	31	63.3	16	32.7	2	12.5	12	2	1	0	1
1年半後	26	16	61.5	7	26.9	0	-	6	1	3	0	0
2年後	5	3	60.0	2	40.0	1	50.0	1	0	0	0	0

【（愛知県事業）の実施状況3】

医療法人成精会　刈谷病院　「SBIRTSを用いた患者支援の試み」

結果（続き）

【2】受診が継続できており自助グループに参加対象者の飲酒状況及び断酒率（表2-1、2-2）

表2-1　○受診継続で自助グループ参加対象者の飲酒状況（人数）

飲酒状況　（名）	1	2	3	4	5	休
3ケ月後　(11名中)	7	1	2	1	0	1
半年後　(9名中)	7	0	1	1	0	2
1年後　(2名中)	1	1	0	0	0	2
1年半後　(0名中)	0	0	0	0	0	1
2年後　(1名中)	1	0	0	0	0	0

表2-2　○受診継続で自助グループ参加対象者の断酒状況（%）

断酒率（%）	1	2	3	4	5
3ケ月後	63.6	9.1	18.2	9.1	-
半年後	77.8	-	11.1	11.1	-
1年後	50.0	50.0	-	-	-
1年半後	-	-	-	-	-
2年後	100.0	-	-	-	-

【3】受診は継続できているが自助グループに不参加対象者の飲酒状況（表3-1、3-2）

表3-1　○受診継続で自助グループ不参加対象者の飲酒状況（人数）

飲酒状況　（名）	1	2	3	4	5
3ケ月後　(34名中)	18	3	6	7	0
半年後　(23名中)	10	2	7	4	0
1年後　(12名中)	5	1	3	2	1
1年半後　(6名中)	2	0	0	3	1
2年後　(1名中)	1	0	0	0	0

表3-2　○受診継続で自助グループ不参加対象者の断酒状況（%）

断酒率（%）	1	2	3	4	5
3ケ月後	52.9	8.8	17.7	20.6	-
半年後	43.5	8.7	30.4	17.4	-
1年後	41.7	8.3	25	16.7	8.3
1年半後	33.3	-	-	50.0	16.7
2年後	100.0	-	-	-	-

【4】事後調査時に新型コロナウイルス感染症による自助グループ休会が該当した対象者

① SBIRTS後節酒希望で院内自助会に参加、3ケ月時は断酒会に繋がり断酒。休会中は断酒会員と電話相談を続け、再開と共に断酒会に入会し断酒も継続中の対象者

② SBIRTS後に断酒会に繋がり３ケ月、6ケ月経過時は完全断酒だったが以後断酒会休会となり１年経過時には受診も中断した対象者

③ ３ケ月時は自助グループ不参加で起算日と飲酒頻度変わらず。その後AAに繋がり6ケ月時は休会中でも断酒していたが、1年経過時は受診も中断した対象者

以上のような対象者の状況である。

表2-1・表2-2・表3-１・表3-2
フォローアップ項目の内容

１：完全に断酒
２：1ほどではないが概ね断ち切っている
３：起算日と比べて飲酒頻度減少
４：起算日と比べて頻度がほぼ変わらない
５：起算日と比べて頻度悪化
休：コロナによる自助グループ自体の休会

【（愛知県事業）の実施状況4】　**医療法人成精会　刈谷病院**　「SBIRTSを用いた患者支援の試み」

考察及び今後の課題

【考察】

(1)今回2年に渡る事後調査の結果、表1CのようにアルコールSBIRTS の手段を用いても３ケ月後36.7%、半年後49.3%、1年後63.3%、1年半後61.5% 、 2年後60.0%と**全体に高い受診中断率**であるとの結果だった。しかし、継続的に受診できている対象者のうち、自助グループへの繋がりの有無別に調査した断酒率からは表2-1,表2-2,表3-1,表3-2のように**何らかの自助グループに繋がっている対象者は「完全に断酒」と「概ね断ち切っている」が優位**であり、**繋がっていない対象者**は**「頻度減少」以降の割合が高く**なっており、受診のみで断酒を継続する難しさが数値に現れている。

(2)コロナ禍により自助グループが休会せざるを得なくなったことで、繋がって間もない対象者は結果【4】②、③にあるように、復会の後に断酒会に行けなくなったり、受診中断するなどの影響がみられた。【4】①の対象者のように**自助グループに繋がった後も会員からの継続的なサポートが必要**であると言える。

(3)今年度は昨年までのようにSBIRTSを行ない必要な関わりをしながら事後調査を続けるだけでなく、当院でできることを考え新たな取り組みを行って来た。当院で**独自に断酒例会案内**を作成し活用している。また、愛知県断酒連合会が、各断酒会をPRする**はがきサイズの紹介案内を作成し提供**してもらえたことで、本年10月末以降は同様に対象者に配布できるようになった。まだ始まったばかりではあるが、会員の声を届ける一助になると期待される。

(4)今年度はコロナ禍により令和2年春からARP入院中に入院患者が自助グループに通えない状況が続いた。その間**自助グループのと接点なくARPを満了した患者に退院後すぐにスリップしたり、早い段階で再入院となるケースが増えた。**そのため9月の退院患者から退院日直前に**入院SBIRTS**を試みた。まだ３ケ月の事後調査にも至ってはいないが、今後の継続調査でどのような結果が得られるか期待したい。令和元年度の当会議の報告書に記した通り、当院外来看護師が対象者に行ったSBIRTSのアンケート調査結果において、「（自助グループに）行こうと思った」と回答した割合が高く、SBIRTS直後の対象者の思いを退院直後に後押しできるのではと期待している。

(5)依存症を否認する当事者とその対応に苦しむ家族が、治療にやっとつながった病院でSBIRTSを介して情報を得られること、様々な支援方法の中から個々に合ったサポートができるのは、本事業ならではの効果ではないかと推察される。

【課題】

SBIRTS後の患者にさまざまな手段を使って、継続的に関わるためのマンパワーが必要